



## 院長挨拶

院長 松永 信

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、新型コロナ感染第5波が11月に収束し、ようやく平穏な日常生活が戻ってくるかと思わせましたが、同月末には、南アフリカ発のオミクロン型変異株出現のニュースが飛び込むなど新型コロナで明け暮れた一年でした。

皆様におかれましては、新たな年を迎えて穏やかに過ごしのことと存じます。ワクチンの接種率向上や、コロナ治療薬開発等の明るい話題もありますので、新型コロナ流行3年目にはいる今年は、何とか落ち着いてくれないかと祈る気持ちです。

私は有山重美前院長の後任として昨年12月1日に宇部リハビリテーション病院・院長に就任いたしました。昭和54年に山口大学医学部を卒業し秋田で内科・外科の初期・中期研修を6年間行い、引き続き愛知県がんセンターで外科の専門研修を2年間行いました。その後、消化器を中心とした外科医として30年余りを宇部協立病院で勤務した後、当院の姉妹病院である宇部西リハビリテーション病院に入職し、亜急性期・慢性期医療の経験を積みました。

私の健康面では、1年半前に両側の人工股関節置換術を受け、リハビリを通して支障なく業務を行えるまでに回復出来たという、患者としての体験もしております。

当院は、これまで、山口大学医学部附属病院を始めとする近隣医療機関や患者・ご家族のご支援・ご協力をいただき、患者さんにより良い医療・介護が出来るように努力してまいりました。これからも、「患者様の在宅復帰・社会復帰に向けてあらゆる努力をするとともに、障害を持ちながらも、人間らしい生活が送れるよう支援する。」という宇部リハビリテーション病院の基本理念にそって、職員一丸となって、さらに質の高い医療・介護の実践に向けて最大限の努力をいたす所存ですので、本年もどうぞ宜しくお願いします。



# 今年は寅年！ 2022

## 年男・年女の方の抱負をいただきました。

寅

あけましておめでとうございます。

1962年生まれの年男です。節目などあまり気にしない性分なので、改めて調べると、年男・年女は年神様のご加護を多く受けられて縁起の良いものだそうです。ただ、今年は同時に厄年(本厄)でもあります。ということは±0でしょうか？いずれにせよ、「どうか良いことがありますように。悪いことが起こりませんように。」と祈願するのはいつもと変わりません。皆様にもどうか良いことだけがありますように。

さて、一昨年、昨年と新型コロナに明け暮れたような日々でした。予断を許さないながらも、ここにきてやや落ち着きを見せつつあるようですが、相変わらず最前線で対応に当たられる医療関係者のご苦労は大変なものです。本当に頭が下がります。

それに比べれば、コロナ陰性を前提にリハビリを請け負う当方などは、苦労など無いに等しいようなものです。ただ、そんな中少々困ったことも起こりました。それは、患者さんとそのご家族、あるいはご家族と医療スタッフの接触が著しく減ったことです。ご家族との会話の中で、「急性期病院では入院から退院まで一度も(患者さん)本人と会っていない」とか、「医療スタッフからの病状説明は電話で受けた。直接の面談はなかった。」といったケースを多数経験しました。そのことは、ご家族の思い描く予後と、医療者側が思い描く予後との間に、より一層大きなギャップを生んでしまったようです。入院後しばらくは、そのギャップを埋めることや障害の受容に、以前よりもずっと労力を要したと感じます。患者さんの変化に最も気付くことができるのはご家族に他なりません。そのご家族が「変化に気付く」機会を失ったことも、臨床の現場が負った痛手の一つだったように思います。これからリモート、オンラインの技術は加速するでしょうが、できればこのまま新型コロナが終息し、「直接見る・触れ合う・気付く」機会が失われないようお願いしたいものです。

SARS(2002～)、MERS(2012～)、COVID-19(2019～)と、どうやら人類は10年に1度くらい新たな感染症によって痛い目にあわなければならないようです。ということは、次の年男までにもう1回くらい新興感染症の襲来を受けるでしょうか(恐)。その時、今回(新型コロナ)のことを教訓にして、

医師 池山 幸英



「虎は何故に強いと思う？もともと強いからよ」

最近の私は、虎とは名ばかりな温室育ちの「飼い猫」と成り果てていたので、今年一年は、もう一度野生を思い出し、「心」「身体」ともに強い男を目指して頑張りたいと思います。

タイガー、タイガー、明けましておめでとうタイガー！！

理学療法士 田尻 祐介



感謝の気持ちと笑顔を忘れずに寛容な心の持ち主でありたいです。また、後輩や新入社員のお手本になるようなケアを目指したいと思います。

今年もよろしく願いいたします。

介護福祉士 有菌 久子



地域連携室に配属となり早くも9ヶ月が経過し、社会人として初めての新年を迎えました。先輩方の仕事姿をみて自身の経験、知識不足を日々感じています。未熟なところばかりですが患者さんやご家族の思いを汲み取った支援ができるよう精進していきたいと思っています。

社会福祉士 中西 千尋

